

## 平成30年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	アンケート分析等からの分析と課題
I 生徒指導の方針・基準に一貫性のある協力体制のもと、基本的な生活習慣を定着させるとともに、規範意識の高揚を図る。	① 挨拶を含めた所作の指導を、学校生活の中で行う。	学校に関係する方々にはもちろん、生徒間の挨拶も積極的にできる生徒の割合が、 A 90%以上 B 85%以上90%未満 C 80%以上85%未満 D 80%未満	(82.2)% (C)判定	自らすすんでよく挨拶している生徒は全体で82.2%となっており、昨年同時期と同じであった。今後も職員の率先垂範はもとより、「遅刻ゼロ・挨拶運動」の取り組み等を通して積極的な挨拶指導を図り、学校全体へ浸透させていく。
	② 望ましい服装容儀や規範意識の向上に対して全職員が積極的に指導にあたる。	服装容儀等について積極的に声かけをしている教職員が、 A 95%以上 B 90%以上95%未満 C 85%以上90%未満 D 85%未満	(88)% (C)判定	挨拶、服装容儀で声かけを行っている教員が88%であり、昨年同時期と大差なかった。基本的な生活習慣の定着は重要であり、次年度もきめ細かな指導を行っていく。
	③ 規則正しい生活習慣と機敏な行動を確立するよう指導することで、遅刻の減少に努める。特に朝の始業5分前に着席するよう強く指導する。	1年あたりの遅刻人数が、 A 20%以上減少した。 B 15%以上減少した。 C 15%未満の減少であった。 D 減少しなかった。	(33.6)% (A)判定	前年度の同時期と比較して学校・授業間遅刻ともに減少(学校:H29:711→H30:497、授業間:H29:374→H30:223)している。「遅刻ゼロ・挨拶運動」や常習者の指導を行うことが遅刻者数の減少に繋がっている。今後も学年・生徒指導・家庭が連携し、粘り強い指導を図る。
	④ 全職員が連携して「いじめ」が根絶されるよう努力する。	「いじめがなく安心できる学校である」と感じている生徒の割合が A 95%以上 B 90%以上95%未満 C 85%以上90%未満 D 85%未満	(95.4)% (A)判定	アンケート調査(生徒版6回・保護者版2回)等の結果、いじめは1件あり(5月)2名を指導している。その他、15名の相談に対処している。SNS上の書き込みや自分本位のコミュニケーションが原因のトラブル等が多く見受けられる。今後も、いじめ対策委員会やアンケート結果等の情報を共有し、速やかに対応する。
	⑤ ゴミの分別を通して、環境美化の意識が向上するよう指導する。	ゴミを正しく分別できていると考えている生徒の割合が A 85%以上 B 80%以上85%未満 C 75%以上80%未満 D 75%未満  ゴミを正しく分別できていると考えている教職員の割合が A 85%以上 B 80%以上85%未満 C 75%以上80%未満 D 75%未満	生徒 (95.5)% (A)判定 教職員 (90.3)% (A)判定	生徒と教職員の間では若干の意識の差はあるものの全体としては良好であるといえる。今後も様々な校内美化活動に取り組んでいきたい。
学校関係者評価委員会の評価		挨拶に関してはC評価となっているが、鶴来高校へ来るたび立派な挨拶に感銘を受けている。遅刻も大幅に減少しているのは評価できる。今後とも基本的な生活習慣を体得できる指導を希望する。		
学校関係者評価委員会の評価 結果を踏まえた今後の改善策		各部の部員にも協力を依頼しての朝の挨拶運動や遅刻の多い生徒への粘り強い指導が奏功したと考える。今後も生徒指導課を中心に関係各部署が連携しつつ、遅刻を減少させ規律ある学校を目指していく。		

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	アンケート分析等からの分析と課題
2 教育活動全般をとおして、生徒に自信と一体感を持たせる。	① 個に応じた進学指導、就職指導を充実させることにより、自分に自信を持たせ、希望する進路を実現するよう努力させる。	年度末の進学状況において、国公立大学合格者が、 A 5名以上 B 3～4名 C 2名 D 1名以下	(C)判定	個別指導などの取り組みにより、2名の生徒が合格した。低学年時からの小論文対策や進路目的の意識づけを行って、合格者を増やしたい。また教員間の情報共有につとめ、共通理解を深めたい。
		11月末の就職状況において、就職希望者の内定率が、 A 100% B 95%以上100%未満 C 90%以上95%未満 D 90%未満	(70%) (D)判定	今年度は求人も多く大多数の生徒が1度目の採用試験で合格をした。しかし、生徒たちの自主性を優先させたため、判断できない生徒が多かった。全生徒に共通の指導を展開するとともに、教員間の共通理解を持ちたい。
	② 遠足・球技大会・鶴翔祭・手取川 学校行事を通して自信・一体感を持つことができたと感じている生徒の割合が、 A 80%以上 B 75%以上80%未満 C 70%以上75%未満 D 70%未満		(68%) (D)判定	行事に消極的な生徒に対し、クラスや委員会、部活動などの単位ごとに役割を与え、小さな課題をクリアしていくことにより、少しずつ自信や意欲を養っていきたい。
	③ 地域とともに歩む学校として、生徒・教職員・保護者が一体となり地域の清掃や行事などのボランティア活動に進んで取り組む。	学校全体を通して、部・委員会・各課でボランティア活動に参加した合計回数が、 A 55回以上 B 40回以上55回未満 C 30回以上40回未満 D 30回未満	(57)回 (A)判定	部活動を中心に地域へボランティア協力をしているが、まだ学校全体として積極的に参加しているとは言えない。白山市フラワーデーや除雪ボランティアなど、生徒や保護者が気軽に参加できる取組について、工夫していきたい。
④ 生徒の部活動に対する充実感、達成感を高めるとともに活性化を図る。	部活動に対して意欲を持って取り組んでいる生徒の割合が、 A 85%以上 B 80%以上85%未満 C 75%以上80%未満 D 75%未満	(73%) (D)判定	1年生において意欲を持って取り組んでいる生徒が67%と低い水準となっている。生徒の興味関心や能力に応じて、部活動をマッチングすること、活動内容を工夫することが必要であり、部顧問会議を通して関係者へ周知していきたい。	
学校関係者評価委員会の評価		就職内定率については、生徒本人はもちろん、保護者とのきめ細かな面談を行うことで向上を図っていただきたい。就職後の離職の状況なども調査し、状況を正しく把握することもお願いしたい。		
学校関係者評価委員会の評価 結果を踏まえた今後の改善策		就職内定率のみならず、進学指導においても、進路指導課と3年学年団がより一層密接な連携を保つことで、改善を図っていく。また1、2年生の時から進路意識を高めるべく教職員が一致したビジョンを共有する。		
3 授業のユニバーサルデザイン化を推進し、個々の生徒の進路を実現させるよう努力する。わかる喜びや学ぶ意義を実感できるように努める。	① 様々な背景や問題を抱えた生徒を理解するために教員が連携できる体制を整え、学校外からも助言を得ながら適切に支援できる能力の向上を目指す。	個々の生徒に応じた指導内容や分かりやすい授業づくりに取り組んでいるという教職員の割合が、 A 95%以上 B 90%以上95%未満 C 85%以上90%未満 D 85%未満	(83.3%) (D)判定	教職員のアンケートでは授業力の向上のための改善など、昨年度よりも意識は向上していると思われる。しかし、生徒が多様化する中、個々に対する対応は年々難しくなっている。教科担当者が個々に面談しどこで躓いているか等、生徒の学習の現状について理解することが必要である。
	② 教科でテーマを決め、また、互いに授業を参観することにより授業力の向上を図る。少人数であることを活かした効果的な授業を行う。	自分の理解度に応じた充実した授業が行われていると感じる生徒が、 A 95%以上 B 90%以上95%未満 C 85%以上90%未満 D 85%未満	(88.4%) (C)判定	教職員のアンケートを見ても前年よりは生徒主体の学習活動を取り入れている教員が多くなってきている。今後は、互いに授業を参観し、方法を共有し、よりよい授業へ向けてチャレンジするきっかけを作る必要がある。
学校関係者評価委員会の評価		時代の変化に応じて、教員の考え方もおのずから変化するのが当然である。今後とも生徒を中心におき、新学習指導要領も視野に入れた授業を工夫して貰いたい。		
学校関係者評価委員会の評価 結果を踏まえた今後の改善策		新年度より学習指導要領の一部前倒し実施が始まるので、それを踏まえて「総合的な探究の時間」を初めとして、探究をキーワードに研究を進めていく。		

重点目標	具体的取組	実施状況の達成度判断基準	集計結果	アンケート分析等からの分析と課題
4 家庭学習時間や読書時間の増加を図り、授業内容の定着と国語力の向上を目指す。	① きめ細かく面談を重ねることで、学習意欲を向上させ確かな学力の育成を図り、将来の目標設定にもつなげていく。	生徒一人ひとりの個人面談回数 が、 A 7回以上 B 6回 C 5回 D 4回以下	(B)判定	個々の面談や、全体での集会などでの学習をして自分の進路の可能性の広がりなど家庭学習の必要性を根気強く解く必要がある。
	② 家庭学習調査を行い、その状況を分析し、課題の出し方を適切に工夫したり、担任が面談したりすることで家庭学習の習慣を身につけさせることにつなげる。	家庭学習の時間を確保している生徒の割合が、 A 60%以上 B 50%以上60%未満 C 40%以上50%未満 D 40%未満	(47%) (C)判定	特進クラス以外の生徒の家庭学習の定着を図るよう、各教科に日々学習できるような工夫をお願いしていきたい。
	③ 学校図書室の取り組みを活性化し、積極的に読書に取り組ませる。	年間の図書室入館者数が延べ A 5,000名以上 B 4,500名以上5,000名未満 C 4,000名以上4,500名未満 D 4,000名未満	(5996)人 (A)判定	教科・学年の協力を得て目標を達成することができた。昨年より約1,000名増加している。今後は貸出冊数の増加にも取り組んでいきたい。
学校関係者評価委員会の評価		面談回数、読書の取組については着実な向上がうかがえる。読書は情操教育に大きく関わるものであり、ひいては道徳性の涵養にも繋がる。ぜひ今後とも取り組んでいただきたい。		
学校関係者評価委員会の評価 結果を踏まえた今後の改善策		図書委員会活動の活性化推進や他校の取組を参考にし、貸出冊数の増加や質的向上に取り組んでいきたい。		
5 地域全体への広報活動に加え、中学校とのつながりを強めるための活動を教員個々が実践する。	① メール配信サービスの保護者登録数を増やし、学校行事や教育活動等をきめ細かく情報提供していく。	年度末の保護者のメール登録数 が、 A 95%以上 B 90%以上95%未満 C 85%以上90%未満 D 85%未満	(94.3%) (B)判定	昨年度と比較して大幅に登録数が増加している。今後、メールで学校情報を発信する機会の増加を考えると、登録数が100%となるようさらなる努力をする必要がある。
	② 中学生やその保護者に本校の教育活動をより理解してもらえよう、ホームページの内容を充実させる。	ホームページの年間更新回数 が A 360回以上 B 300回以上360回未満 C 240回以上300回未満 D 240回未満	(A)判定	今年度の更新回数は、455回と大幅に更新された。タイムリーな情報を今後も発信し続けるとともに、魅力的な内容となるよう努力していきたい。
	③ 教職員一人ひとりが中学校・地域とのつながりを強めるために積極的に活動する。	中学校・地域とのつながりを強める活動ができたと思う教職員の割合 が、 A 80%以上 B 70%以上80%未満 C 60%以上70%未満 D 60%未満	(60%) (C)判定	残念ながら、昨年度を6%ほど下回っている。地域に貢献し地域と連携する学校であるという意識を堅持し、様々な活動を更に展開していく必要がある。
学校関係者評価委員会の評価		メール配信登録者数が増加しているのは、広報だけでなく緊急時の連絡等にも大変良いことである。ホームページの更新も大変回数が多く鶴来高校を知って貰うために役立っており、大いに評価できる。		
学校関係者評価委員会の評価 結果を踏まえた今後の改善策		教職員の取組がやや不十分である。ホームページやメールも大事だが人的なつながりをより強化していく必要がある。		
6 教職員自ら、これまでの働き方を見直し、限られた時間の中で、教材研究・授業準備や生徒と向き合う時間を十分に確保できるようにする。	① 各教職員が自らの勤務時間や業務内容を的確に把握し、超過勤務時間の縮減に努める。	超過勤務時間の縮減に取り組んだと思う教職員の割合が、 A 90%以上 B 80%以上90%未満 C 70%以上80%未満 D 70%未満	(93.6%) (A)判定	7月調査に比して大幅に改善した。意識の向上とともに、超過勤務時間自体も昨年同時期と比較して減少している。今後も更なる超過勤務時間縮減に努めたい。
学校関係者評価委員会の評価		無理のない範囲で業務の合理化を進め、不要な長時間勤務を減らしていただきたい。部活動も色々な考えがあることは承知しているが、エビデンスに基づいた効果的な指導をする必要がある。		
学校関係者評価委員会の評価 結果を踏まえた今後の改善策		秋以降、超過勤務時間が大幅に減少した。今後も業務の優先事項を考え、不要な超過勤務を縮減する方策を検討していきたい。		